

令和4年度 第2回住吉区地域福祉専門会議

令和4年9月22日（木）

【三河保健福祉課長代理】 それでは、定刻になりましたので、令和4年度第2回地域福祉専門会議を開催いたします。

本日はお忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。私は本日の司会を務めさせていただきます、住吉区役所保健福祉課課長代理の三河と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、まだ新型コロナウイルス感染症が収束していない中での開催となっておりますので、お席とお席の間にパーティションを設置させていただいております。また、フェイスシールドをご希望の方がいらっしゃいましたら、ご用意しておりますので、事務局までお声がけください。座席等の消毒は事前に実施しております。お使いいただくマイクにつきましては、都度消毒させていただくなど、できる限りの感染対策を実施してまいります。開催時間につきましても、できる限り早い時刻での終了をめざしておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、平澤住吉区長からご挨拶申し上げます。

【平澤区長】 皆さん、こんばんは。区長の平澤です。平素より住吉区政にご理解、ご協力いただきまして、本当にありがとうございます。コロナもようやく収束といえますか、少し少なくなってきたということ、ようやく日常生活も制限が大分少なくなってきましたけれども、やはりまだまだ感染には気をつけていく必要がございます。皆様方、非常に日常的に気を遣って感染防止に努めていらっしゃると思いますけれども、すいませんが、また引き続きよろしくお願いしたいと思います。

本日は、議事としまして、住吉区の地域福祉ビジョンの改訂に向けましての議事がございます。最近つくったばかりと、3年間ですので、つくったらまた次の改訂ということになってまいりますけれども、また、皆様方あるいは区民の皆様方からも幅広くご意見を頂戴しながら福祉行政を推進していきたいと考えておりますので、本日も忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

1点ちょっと宣伝させていただきたいものを1つ机の上に置かせていただいているんですけれども、「すみちゃん安全・安心プロジェクト」ということで、「すみちゃんカメラ設

置大作戦！！」というチラシを置かせていただいております。こちらは要はご寄附をお願いしたいという点なんですけれども、移動式の防犯カメラというものを住吉区は1台購入しております、ハト・カラスの餌やりの問題ですとか、小学校のガラス窓を割られた件等で活用させていただいております。それで、今回やっぱり防犯カメラを増やしていきたいなという思いもございまして、区民の皆様方からご寄附も募りながら、区内の安心・安全の確保に努めてまいりたいと考えております。ちょっとこの場をお借りして宣伝させていただきましたが、ぜひとも寄附のお願いをしたいといえますことと、また、お知り合いの方にもこういったことやっていますということも宣伝していただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

【三河保健福祉課長代理】 そうしましたら、本日ご出席の委員の皆様につきましては名簿をお配りさせていただいておりますので、ご参照ください。なお、大河内委員、藤本委員につきましては少し遅れて来られるようです。なお、三橋委員におかれましては、本日所用によりご欠席でございます。また、アドバイザーとして桃山学院大学の小野教授にもご参加いただいております。よろしくお願いたします。

それでは、会議を始めさせていただきますが、その前に皆様方にお願がございます。議事録を残すために、ご発言いただく際にお名前をおっしゃっていただきますよう、よろしくお願いたします。また、録音をさせていただきますので、マイクのご使用も併せてお願いたします。

それでは、案件に入らせていただきます。

西田委員長に進行をお願いたします。

【西田委員長】 西田でございます。本日もよろしくお願いたします。

早速報告事項に入っていきたいと思っておりますので、まずは報告（1）の住吉区地域見守り支援システムの進捗状況についてに移ってまいります。皆様方からのご意見につきましては、引き続きの報告、地域座談会の開催状況、住吉区地域福祉推進ビジョンVer.2の令和4年度の事業の進捗状況についての説明が終わった後にまとめてお伺いいたしますので、よろしくお願いたします。

それでは、事務局、よろしくお願いたします。

【増田地域福祉担当係長】 保健福祉課、増田です。私のほうから、まず1点目につきまして報告をさせていただきます。

見守り支援システム進捗状況ということで、資料1をご覧くださいと思います。

すいませんが、右側の登録者訪問、日頃の声掛け、個別支援プランというところは少し動きが、ちょっと集約のほうに細かく取れていない部分があるので、前回と同じ内容となっております。

台帳登録者というところで、毎年10月に台帳を年1回更新しております。新規で手を挙げていただいた方、真ん中に令和4年10月地域提供予定者数というところで605名分、今回新たに新規で登録をされております。そういった方を含めて、一番左のところにあります現在の台帳登録者数というところの6,131名分の台帳を10月に各地域のほう、地域別で台帳の差し替えをしていきたいと思っております。

見守り支援システム進捗状況ということで、10月の台帳更新についてということで、少し報告をさせていただきます。

資料2の地域座談会の開催状況ということで見ていただきまして、4年度開催予定ということで、山之内地域のほうで6月20日にコアメンバー会議を開催させていただいて、8月31日、10月13日開催予定としておりましたけれども、コロナの感染再拡大という状況の中で、8月31日については延期をさせていただいております。10月13日の開催につきましても、改めて1回目、2回目どうするかということで、コアメンバー会議を開催して日程調整をしていきたいというふうに思っております。

清水丘地域については、コアメンバー会議として7月11日に開催をされました高齢者ネットワーク交流会の後段で、コアメンバーに当たる方々が集まっておられましたので座談会の開催について諮らせていただき、開催については了承を得たところです。詳細について改めて詰めるというところで、コロナの状況もありますので、今のところ、その先には進んでいないところにはなっています。

南住吉につきましては、令和2年に1年次の1回目を開催し、2回目がコロナで中止になった状況のままとなっておりますので、改めて地域と協議をしていくこととしております。

1年次を開催した長居、荻田、荻田南については、2年次以降、事業実施に向けて、事業計画に向けて座談会再開の要請の声も上がっているところですが、こちらのほうも順次調整をしていく予定とさせていただきます。

東粉浜地域につきましては、1年次やりました結果を受けて3月24日にコアメンバー会議を開催し、1年次の結果に基づく「地域のこどもたちの顔が見えるまち」づくりということで、ハロウィンパーティーを開催するというところで少し報告をいただいております。

今のところ、実施としましては、10月30日の日曜日に開催をしていく形で、実行委員会を立ち上げて計画を進めていくというふうに聞いておりました、今後の実行委員会には区役所、区社協ともに参加をさせていただこうというふうには考えているところであります。

それと、墨江地域につきましては、地域福社会議で地域福祉ビジョンを検討されておりました、一応、素案ができた状態で、この素案について、本年度も11月にケアマネ交流会、ちょっと名称は変えるというようなこともお聞きをしておりますけれども、そこで議論もいただいたということで、今年度、その交流会にビジョン案をお示しして、またご意見をいただいくということをお聞きしているところです。小地域福祉計画、小地域福祉ビジョンということで、墨江のほうでそういった作成が進められているという状況になっております。

私のほうからは以上です。

【北野地域福祉担当課長代理】 保健福祉課地域福祉担当課長代理の北野でございます。よろしくお願ひします。私のほうから、報告の3番目でございます地域福祉ビジョンに基づきます令和4年度事業の進捗状況についてご説明させていただきます。

資料のほう、資料3の地域福祉ビジョン進捗管理表、こちらのほうをご覧ください。

まず、(1)みんなが支え合う豊かなコミュニティづくりの①地域ごとの小地域福祉計画づくりにあります、A 地域座談会等の開催支援についてということで、表の一番右の8月末現在の実施状況についてになります、こちらにつきましては今ご報告させていただきましたので、省略のほうさせていただきます。

続きまして、その下のBの項目にあります小地域福祉計画の支援につきましても、報告済みとなっておりますので省略のほうさせていただきます。

ページのほうめくっていただきまして、②のA ネットワーク会議の開催支援というところの、表の一番右の8月末現在の実施状況になりますが、子ども食堂連絡会や高齢者食事サービス連絡会などの各種連絡会や交流会が予定どおり開催のほうされております。

続きまして、Bの食事サービスやふれあい喫茶などの開催情報の発信につきましては、各地域の開催状況や中止などの情報を区のホームページに掲載することができております。

またページのほうをめくっていただきまして、(2)の①のA 地域と専門職のネットワーク強化につきましては、地域と専門職が連携して、おりおのカフェや墨江で出張相談などが計画どおり開催されております。

次のB 地域支援事務所の窓口機能・拠点機能の充実につきましては、コロナ禍の状況

ではありますが、地域での見守りボランティア会議などが継続して開催されておりますし、10月と11月には常駐支援相談員の研修会も予定されております。

次の②のA「はぐあっぷ」事業の継続実施につきましては、こちらにつきましても、コロナ禍の状況においても、子育て支援連絡会の開催や子育て応援マップの発行などが計画どおりに実施できております。

次のBのすみちゃん「こども・子育て安心」見守りネットワークの推進につきましては、「リーフレット『ヤングケアラーを知っていますか』」を地域活動協議会や民生委員等に配付し、活用のほうをいただいております。また、今後も、地域で見守り活動を行っている方々の意見等を踏まえた内容の研修や啓発用ハンドブックなどの作成を予定しております。

次のページになります。

Cのこどもサポートネットの継続実施につきましては、スクリーニング会議の開催や児童生徒に対するアセスメントを実施するなど、支援を必要としている児童や世帯を継続的に把握し、適切な支援につなげておるところでございます。

Dの「地域の拠点づくり・潜在的リスクへのアプローチ」事業の実施につきましては、子育てなんでも相談会を立ち上げて相談を受けるとともに、見守り支援事務所や子育てサロンなどを巡回し、子育て世帯の身近な相談の場の確保に努めています。また、要対協登録事例の中で見守りが手薄なケースへのアプローチを行い、必要な支援につなげておるところでございます。

続きまして、③のA「総合的な支援調整の場（つながる場）」の活用についてですが、区内の関係機関と連携しながら「つながる場」を開催し、複合的な課題を有する世帯に対する支援策の検討や、関係機関の連携を継続して実施のほうをしております。

Bの子ども若者育成支援事業の継続実施につきましては、相談事業では、7月末現在で延べ128件の相談を受けるとともに、ケース検討会議や各種講座なども計画的に実施できております。また、ゆるやかな就労支援の場として、社会福祉施設と連携し、現在2名の若者を清掃作業などの非常勤として雇用していただいております。

続きまして、次のページになります。

④のA 区実務者代表者会議等を活用した包括的な支援の実施につきましては、区社会福祉協議会と打合せ会議を開催し、要綱策定に向けて協議のほうを進めておるところでございます。

⑤のA 成年後見制度の利用促進につきましては、広報「すみよし」(9月号)において成年後見制度の説明や利用窓口を掲載し、必要なときに速やかに窓口につながるよう取り組みを進めております。

(3)の①のAになります。日頃の見守り・声かけの未実施地域への働きかけにつきましては、重点地域をはじめ、各機会を設けて見守り支援システムの説明や訪問の仕方などをアドバイスするなど、地域全体での取り組みとなるよう支援を行っておるところでございます。引き続き、未実施地域への働きかけを進めてまいります。

②のA 住吉区総合防災訓練の実施につきましては、今年度は11月12日の総合防災訓練の実施に向けて各種会議や説明会を開催するなど、準備を進めておるところでございます。

次のB 福祉避難所等連絡会の開催につきましては、福祉避難所等連絡会を開催し、福祉避難所等開設運営の動画作成に向けた意見交換を行うなど、災害対応力の向上を図っておるところでございます。

次のページになります。

Cの社会福祉施設連絡会等とのネットワークの強化につきましては、災害への備えについて考える防災イベントの開催に向けて、実行委員会での議論が進んでおるところでございます。

次の(4)の①のA 区民への地域活動・社会参加の促進講座・研修の開催支援につきましては、手話奉仕員養成講座や点字教室などの研修が計画どおりに開催されております。

Bの福祉教育の実施支援につきましては、車椅子体験や高齢者疑似体験を通して、地域や学校などにおいて福祉教育のほうが進められております。

Cのボランティア交流会の開催支援につきましては、まちづくり交流ライブなどを開催することにより、ボランティア同士の情報交換や活動の活性化が図られておるところでございます。

次のページになります。

(5)の①のAの在宅医療・介護連携の推進につきましては、コロナ禍の影響で啓発や研修のほうはできておりませんが、ウェブ会議を活用するなどにより、関係機関などが連携した取り組みのほうが進められております。

Bの地域包括支援センターの認知度の向上・運営の充実につきましては、広報「すみよし」やリーフレットの配架などにより包括支援センターの周知を行うとともに、連絡会などに参加し、運営についても後方支援を行っておるところでございます。

続きまして、Cの生活支援コーディネーターによる地域福祉の活性化につきましては、老人クラブや山之内地域などと連携してスマホ教室が開催されています。また、リーフレットや広報誌を通じて、各種取り組みの周知や情報発信が行われています。

②のA 社会福祉施設連絡会との連携につきましては、「福祉の現場見学ツアー」を開催し、福祉人材の育成に取り組むとともに、区が実施する子ども若者育成支援事業における中間就労の場との連携も図られておるところでございます。

最後の③のA CB/SB社会的ビジネス化の推進につきましては、ペットボトル回収事業について、令和4年4月から遠里小野地域、8月からは東粉浜地域において、新たに実施のほうをされておるところでございます。

以上が、8月末までの各取り組みの実施状況となります。よろしく申し上げます。

【西田委員長】 ただいま事務局より説明がありましたが、この3つの報告事項につきまして、皆様方からご意見、ご質問等はございますでしょうか。ございませんか。よろしいですか。次の議事にも関係することだと思しますので、そこで膨らませていただいても構いませんが、よろしいですか。

という感じですね。じゃ、議事に入って行く中で今の報告も含めて膨らませていきたいなと思いますので、それでは、議事のほうに入ってまいりますので、住吉区地域福祉ビジョン改訂に向けての評価方法と改訂作業について、事務局のほうからご説明いただければと思います。よろしく申し上げます。

【田中保健福祉課長】 保健福祉課長の田中です。そうしましたら、私のほうから議事ということで、住吉区地域福祉ビジョン改訂に向けての評価手法と改訂作業につきまして、ご説明をさせていただきます。

資料4をご覧くださいと存じます。

皆様方ご承知のとおり、今の住吉区地域福祉ビジョンVer.2.0に関しましては、令和3年度から令和5年度までの3年間の計画となっております。したがって、来年度、令和5年度につきましては、ビジョンの改訂に向けて作業を進めていくということになっているところでございます。

それで、資料4のほうにはその改訂に向けたスケジュールということで、事務局のほうで案を作成させていただきました。本日、令和4年9月22日から令和6年6月のビジョン改訂までのスケジュールということで記載をさせていただいております。

改訂のスケジュールといたしましては、概ね前回、令和2年度の改訂プロセスに準じて

おりまして、専門会議や何名かの委員の皆様方にご協力いただきまして小委員会というものも設置させていただき、そういったところで議論を行いながら今のビジョンの評価を行った上で、次期ビジョンの素案、さらには案の作成といったことを進めてまいりたいと考えております。その上で、令和6年3月中旬から4月中旬ということでパブリックコメントを実施し、令和6年6月に改訂を行いたいというふうに考えております。

なお、こちらに記載しております専門会議の開催時期あるいは小委員会の設置といたすのはあくまでも事務局の原案ということでございますので、この時期に開催するのがいいのかということでもありますとか、あるいは小委員会ではなくて、例えば高齢者、障がい者、子どもといった分野別の部会を設置して議論をしたほうがいいのかと、そういったところ、進め方全般につきまして後ほどご意見をいただければと存じます。よろしくお願いいたします。

続きまして、ビジョンの評価手法につきまして説明をさせていただきます。

その次に資料ということで、住吉区地域福祉ビジョン総括表ということで、右上に「例」と書かせていただいている資料があるかと思えます。そちらのほうをご覧くださいければと思います。

それで、ビジョンを改訂するに当たりましては、今回のビジョンでめざした理想の状態に到達したかどうかといったところを評価した上で、その結果を次の改訂に反映させていくことが必要であるんですけども、これまでは事業実施者としての評価しか行っておりませんでした。しかしながら、前回、第1回のこの地域福祉専門会議のほうでも、そういった実施者評価だけではなく、客観的な評価も必要ではないかといったご意見もいただいたところでございます。そこで、事務局のほうで、委員の皆様方に評価していただくための評価表というものを作成させていただきました。それがこちらの資料になってございます。

それで、この表の説明をさせていただきますけれども、今のビジョンのそれぞれの項目ごとに、ビジョンにおける理想の状態、到達目標があり、それに対する現状の到達状況を事務局のほうで示させていただいた上で、その右のところ、委員評価という欄がございますけれども、評価に当たってのコメントと、左下に記載しておりますけれども、A、B、Cの3段階の評価、こちらを評価の欄に記載していただくということで考えております。さらに一番右の欄には、それぞれの項目ごとに次期ビジョンを策定するに当たって修正したほうが良い事項、あるいは加えたほうが良い事項、そういったものを記載していただく

欄というのも設けさせていただいたところでございます。本日は、この評価表につきましてもご意見をいただきたいと考えております。

その上で、本日いただいたご意見を事務局で取りまとめをさせていただきまして、ご意見を受けて評価表の修正等が出てきましたら、そういったところもやらせていただきまして、先ほどの、すいません、ちょっと資料4に戻っていただきますと、そのスケジュールの中で次の専門会議が2月16日に開催予定となっておりますので、その第3回の専門会議の中でその時点での到達状況を改めて説明させていただいた上で、評価表の提出のほうを改めて依頼させていただきたいというふうに考えております。

さらに、資料としてもう1つ、一番最後につけさせていただいている資料があるんですけども、「次期の『住吉区地域福祉ビジョン』に新たに加えるべき課題」と記載した資料、こちらのほうも例ということで配付させていただいております。こちらのほうは、現在のビジョンには記載されていない課題で次期ビジョンに加えるべき課題がありましたら、先ほどの評価表と一緒に提出していただければと考えております。

そのあたりのものをいただいて、評価あるいは新たに加えるべき課題ということで、そういったいただいた意見を踏まえてビジョンのV e r . 2 の評価を行うとともに、改訂作業にも着手し、令和5年6月開催予定の令和5年度の第1回専門会議のほうにつなげてまいりたいと考えております。

私からの説明は以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

【西田委員長】 ただいま事務局から説明がありました住吉区地域福祉ビジョンV e r . 3に改訂していくに当たって、現行のV e r . 2の総括について、これまでの事業実施者から見ての評価だけではなく、客観的な評価をどう加えていくのかという部分を踏まえて、皆様方にこれから評価作業に入っていただくに当たって、今、評価についての簡単なロードマップと、それから、それに評価をするための評価表についてのご説明、それから、次のビジョン策定に当たって加えるべき課題が何なのかというような一連のシートについてのご提示がありましたが、これについては皆様方にやっていただきます評価になりますので、全委員からそれぞれ一言ずつコメント、質問、それから、何でも構いませんのでご意見をいただきたいなというふうに思いますが、それじゃ、吉田委員から順番にコメントいただければと思います。

【吉田委員】 吉田です。総括表について、総括方法については理解しました。

スケジュールのところ、先ほど課長のほうから、例えば小委員会のところで、障がい

とか児童、高齢と分けてやるのはどうかというふうなお話もあって、個人的にはそのほうがやりやすいなというふうには思うんですけども、この住吉区の地域福祉ビジョンはすごく広い分野を抱えていますので、できればあまり分散せずに、地域全体も含めた形でやったほうがいいかなと思いましたが、特別分けてやらなくてもいいのかなというふうに考えています。すいません、今のところは以上です。

【西田委員長】 ありがとうございます。小委員会の開催方法についてのご意見だったと思いますので、ありがとうございます。

それじゃ、山下委員、お願いします。

【山下委員】 すいません、山下です。私は一応、小委員会開催は賛成派です。すいません。

それと、ここで申しあげていいかどうか、まだタイミング的に早いのかどうか分かりませんが、委員長、いただいているビジョンの、北野代理から説明のありました一連のこの書類の中の資料3の分ですが、活動の中のAのネットワーク会議の開催支援という欄がございまして、私が言いたいこと、分かるでしょうか。

Aのネットワーク会議の開催支援のところちょっと付け加えていただきたいなと思っておりますのが、こども110番の登録者、今現在お願いしている登録者の方々との情報交換といえますか、各地域ごとの。既に荻田地域でまち歩きという形でイベントをなさって、こども110番の重要性というのは評価されたんですが、あのような大きなイベントじゃなくて、子ども見守りの方々を支援するというか、バックアップするという意味で、こども110番の登録者同士のいわゆるミーティングのような形のものをしていただけないかなと。

と申しますのは、一応旗だけは掲げていますが、果たして何を私らはしているのかなという感覚の人が多いもので、ぜひ小学校単位でも、各校区でそういうことをやるべきじゃないかなと。ひいては高齢化に伴う子ども見守り隊の隊員の皆様方の減少という大きな問題を抱えている中で、何かそれに代わるものを見いだしていきたいなというふうに思っておるんですが、よろしく願いいたします。

以上です。

【西田委員長】 ありがとうございます。今のお話でいきますと、やはりここに書かれている内容をもう少し具体的に、それぞれの取り組みの課題みたいなのところがあって、ネットワークでしたら、もう少し子ども見守り隊の実際活動されている方の意見交換の場へ

と広げていくようなことが課題だというような内容かなと思ったんですけども、だから、実際、山下委員に評価していただいたのかなというふうに思うので、そういったことが反映されやすいというか、次回、もう少し具体的にこの取り組みの内容が分かるような内容があれば、今の山下委員のようなご意見が反映されていくのかなというふうには思いますので、よろしくお願いします。

今の山下委員の件について、事務局から何かありますか。

【中畠社会福祉協議会事務局長】 すいません、住吉区社協の中畠です。山下委員、ありがとうございます。

多分やっていることを書いてあるだけで、その課題とか後ろの背景がちょっとこのビジョンの総括表では見えにくいので、そこを踏まえると、山下委員が言ってくださったような課題というか、取り組めていないところも含めてもう少し議論ができるのではないかなというふうに受け止めましたので、ちょっと区役所さんと調整していませんけれども、総括表の書き方というか、皆さんに評価してもらうための土台をもう少し分かりやすく、4年度だけではなくて、3、4、5と取り組んでいるものなので、そのベクトルがどうなのかということも併せてちょっと分かりやすく表現をしていくことができれば、また、山下委員のところを含めて検討をしっかりとできるのかなというふうに考えます。

【西田委員長】 山下委員、よろしいですか。

【山下委員】 はい。

【西田委員長】 ありがとうございます。

では、宮川委員、お願いします。

【宮川委員】 宮川です。2点だけ。2点。

まず、委員評価なんですが、企業でもよく自己評価というのがあって、あと、上司の評価というのがあると思うんです。ですので、上司とか部下とかそういう意味ではないんですけど、ぜひ、この評価の欄に自己評価を入れていただけたらと思います。行政としてはこう評価しているんやというのを入れといていただいて、あくまでも委員はこう評価しますというふうに。多分、行政が評価したら厳しいと思うんですよ、自己評価、結構今まで見てたらね。ですので、行政のほうでの評価というのを入れる欄を加えていただけたらなど。ただでさえちょっと字がちっちゃくて見にくいんですけど、そういう欄があったらいいかなというふうに思いました。

あと、小委員会ですけど、さっき田中課長から分野別でという話があったんですが、地

域福祉の課題に関することなので、私本人としては、分野別で議論しないといけない課題も確かにあるとは思いますが、せっかくいろんな分野の方が集まっていますので、いろんな意見が出たほうが本当はいいのかなというふうに思います。この間、介護保険情報の行政から流れてくる情報の中にヤングケアラーに関しての情報もありましたので、ヤングケアラーを発見したときは速やかに連絡してくださいというような内容のものが流れていましたので、高齢、児童問わず、地域福祉に関しては恐らくいろんな関わり方で地域が成り立っているのかなというふうに思いますので、これは小野先生にまた評価いただけたらと思うんですが、そう思いました。

【西田委員長】 自己評価を入れるということと、吉田委員と一緒にですね、地域福祉という題材ですので、特に分野で分ける必要はないんじゃないかなというご意見でした。

それでは、藤本委員、お願いします。

【藤本委員】 すいません。私、今年度が初めての参加なので、どういう評価をしたらいいのかなというのはちょっと皆さんにまたお伺いさせていただきたいなと思っていますので、評価は、あ、こういうふうにするんだなと今ちょっと学びながらいるんですけど、小委員会は、私も子ども食堂連絡会からここに参加させていただいているんですけど、このいろんな福祉分野に対して、一気に皆さんのご意見を聞ける場だと思っているので、分野別で分けてするよりも小委員会的な、いろんな人の意見を聞かせていただきたいなと思っています。以上です。

【西田委員長】 ありがとうございます。

それじゃ、藤居委員、お願いいたします。

【藤居委員】 藤居です。私も今年からこの場に参加させていただいているんですが、本当に地域でのこういった取り組みに関して、もっと自分たちが介護保険の事業所としてできることがたくさんあるように日々感じているんですが、具体的に何ができるのかというところを、もう少し「こんなことできませんか」「あんなことできませんか」みたいに提示してもらえれば、もっと深く考えていけるのかなというふうに常々考えております。

評価に関しても、先ほどおっしゃったようにちょっとどのように評価していったら、本当にコロナ禍なので、本来したいと思っていることがなかなかできない現状にはあるとは思いますが、学びながらやっていきたいと思っています。

委員会に関してですが、私も高齢や障がい分野しか知らないもので、いろんな意見を聞かせていただいて地域福祉に取り組んでいけたらと思うので、全体会議でいいと思います。

以上です。

【西田委員長】 ありがとうございます。

では、八牟禮委員、お願いします。

【八牟禮委員】 八牟禮です。私はやはり子どものことしかちょっとよく分からないんですが、ウィズコロナの中で、やっぱり活動がたくさんできたらいいなとずっと思っています。今月、子育てサロン、やったらいいのか、開催したらいいのか、1週目だったのでちょっと迷ったんですけど、やはりやめることにしました。やっぱりやめるということはどうなのかなという、気持ちのほうはやりたいと思っているほうなので、やれないというのは何かちょっと、「ん？」という気持ちもたくさんありました。きっとほかの行事をされる方も、ウィズコロナでやれるんじゃないかなと思いつつやめられる方もたくさんおられると思いつつ、今回はやめました。

防災に関して今回やろうと思っていたんですけど、子どもに関しての、子育て世代に関してのリーフレットへの防災、そういう有事のときにどんなものを用意しておいたらいいかとか、そういうパンフレットなんかもできないかなとかってちょっと思って社協さんにご相談させていただいたら、地域課のほうで何か考えてくださるということだったので、楽しみにしていますという感じです。

やっぱりヤングケアラーは今ちょっと気になっていることなので、子ども食堂さんとかも何かいろいろしてくださっているんだろうなと思いつつお手伝いできていないのが、今から皆さんがどういうふうに関われるか、地域がどういうふうにならぬ子どもたち、ヤングケアラーの方に関われるかということも何かここに載せられないかなとちょっと思っています。

以上です。

【西田委員長】 ありがとうございます。

それじゃ、北原委員、お願いします。

【北原委員】 北原でございます。なかなかコロナの関係でいろんな事業ができなくて、振興会のほうでもいろいろ、盆踊りやなんかも計画されたところも中止が多かったり、いろんなことになっています。

これからちょっと収まってくるので、私の地域でも今度10月は子ども主体のハロウィンパーティーを計画して、10月に入ったら、青少年指導委員や民生委員や皆協力してやっていこうと思っております。

そして、SDGs になると思って、ペットボトルの回収事業を8月からもやっています。8月は、やっぱり夏は皆お茶をよく飲むのでペットボトルがすごく出るんですけど、2週間に1回業者が取りにくるから、家に置くのがいっぱいというので、やっぱり毎週のほうにも出て、もう一遍また回覧し直して、夏を過ぎたらみんなためてくれるのかなと思うんですけど、今、2週間に1回はやっぱり皆、家に置いとくのが嫌で出されて、ちょっとまだ浸透していないんですけど、これも始まればちょっとでも社会に役立つじゃないかなと思っております。

以上です。

【西田委員長】 ありがとうございます。

大谷内委員、お願いします。

【大谷内委員】 大谷内です。話が大体大き過ぎて、私は自分の身近なところでの活動ばかりなので、どうも何を言ったらいいのかなとさっきから四苦八苦考えているんですけど、今度、本当にコロナがあることで、自分もコロナになったんですけど、いろんな行事が半分はできています。子育てサロンとか、ふれあい喫茶とか、それから百歳体操とか、そういうふうな活動は今までどおりやっていて、たくさんの人に参加してもらっています。地域の声かけ・見守りなども今までどおりやっているんです。でも、いざ、みんなが集まってイベントをしようということにはなかなかならない。そういう身近な活動はやっているんですけど、イベントができないというので、何かちょっと物足りなさは多分地域の方々、皆感じていると思います。

遠里小野地域は今度、竹灯籠を熊野街道沿いに置いてやるというのを5年ぶりに復活するんですけど、それは多分、高齢者の方は喜んでくれるし、子どもたちはその竹灯籠に小学生が絵を描いてくれているので、子どもから高齢者の方まで身近に感じてくれる1つのイベントになるかなとは思っています。

だけど、今まで小学校の校庭を使ってバザーをやったり、ミニ運動会をやったりというふうなので、本当にみんなで楽しめるような行事ができなかったのがすごく残念です。

先ほど話し合っていた中で、小委員会というのをどうするかというふうな話がありましたが、私もこういう場に来させてもらって、いろんな立場の人の意見を聞けるというのが、すごく自分の糧になっているなとは思っています。だから、小委員会は、高齢者とか障がい者とか子どもとかいうふうなことに分けないで、やっぱり全体の立場の人が構成したほうがいいんじゃないかなとは思っています。

1つちょっと質問なんです、この地域座談会というのは初めに3つの地域でやられて、また次、3つですか、やって、これ、みんな中途半端で来ていますよね。だから、これは地域座談会をして、後、何をどうするんですか。ちょっとよく分かんのです。地域座談会というのは何のためにやって、後、それをどういう生かしていくのかが、私、よく分かっていないんです。もし誰か説明できたらお願いしたいなと思っています。遠里小野地域はまだ第3弾か第4弾か知りませんが、そこら辺になるんですよね。それまでにちょっと教えていただきたいなと思います。

【西田委員長】 ありがとうございます。

今のご質問に。

【増田地域福祉担当係長】 保健福祉、増田です。地域座談会について少し説明をさせていただきます。

地域活動協議会、運営委員会等で、地域で活動されている活動主体の皆さんが集まって地域づくりのお話をいただいているんですけれども、地域にはさらにいろんな、企業というほど住吉に企業はないんですけれども、事業所であったり、病院であったり、商店街であったり、そういったところがやっぱり地域資源として地域の活動に入っていただくというのは、非常に地域づくりと一緒に考えていただく場も要るのかなということで、地域のこれまでの活動団体だけではなくて、そういったいろんな主体の人にも入っていただいて、まちづくりについてお話をさせていただく。

専門会議のアドバイザーに入っています小野先生のほうから、増進型地域福祉ということで、地域福祉について、これまではどちらかというと福祉のイメージって、ちょっとマイナスの人をゼロに戻していくというようなイメージが強かったんですけれども、さらにそこを、もともとの福祉という意味合いは等しくというか、みんなが幸せになっていくんだということが本来福祉の持っている意味ということもありますので、そういった地域全体がさらに幸せになっていくような活動を何か見つけていけないか、地域の課題を掘り起こして、さらにそれを全体で取り組めるような事業なりを考えていって、より豊かな地域づくりに持っていけたら、そこに先ほど言いましたように地域の住民だけではなくて、その場に働いておられる方であったりとか、商店の方であったりとか、事業所の方にも参画をいただいて考えていけたらということで実施をさせていただいております。

【西田委員長】 大谷内委員、どうですか。どうですか。突き詰めたほうがいいと思いますよ、今。今、詰めたほうがいいと思いますよ。

【大谷内委員】 自分の地域で言ったら、グループホームを経営しておられる人とか。遠里小野地域ってすごい狭くて古い町なんです。だから、どんな人が集まるのかなと思って今考えていたんですけど、あんまり、そんないろんな分野の人が集まる感じはなくて、地域活動協議会の主なメンバーが集まるだけかなというふうに思えたんですけどね。増田さんも遠里小野地域、よく分かるでしょう。

【山下委員】 委員長、ちょっといいですか。

【西田委員長】 どうぞ。

【山下委員】 山下でございます。大谷内さんにちょっと分かりやすく、僕、同じ地域の人間として考えていること、思っていることを。

【大谷内委員】 よろしくお願ひします。

【山下委員】 実は山之内の施設連絡会というのが昔ありまして、そこが主催して福祉まつりというのを毎年11月に開催していたのですが、現在消滅してしまっていて、なくなりました。それに代わるものという形で、何か地域の方々と1年に1回楽しいイベントができないかということで考えておりまして、この座談会を利用いたしまして、地域にある信用金庫とか、身近なところではお風呂屋さんとか散髪屋さんとか、要は山之内地域で日頃顔を合わせているメンバーと協力して、そういうお祭り、イベント、何かをしたいなということで、1つの目標として、地域座談会の中の構成メンバーの皆さん方にご協力いただいて、そういうことを立ち上げたいなということをめざしております。

ですから、あまり難しく考えないで、要は山之内、遠里小野のそれぞれの地域の盛り上がりいわゆる福祉という面を利用して皆さんと楽しみたいということで、座談会を開くことにしております。

以上です。

【大谷内委員】 ありがとうございます。それでいったら、遠里小野の場合は、まだ1回しかしていませんが、コロナになる前にやっていたおりおのフェスティバルというのを、会場が小学校だったんですけど、ああいうふうなのを復活するだけで十分かなと、地域座談会をしなくてもいけるなと思ひながら今ちょっと聞いていたんですけど。すいません。ありがとうございました。

【西田委員長】 という人が多いということですのでね。ですので、コロナでやっぱりまだまだ閉じている状態ですので、これから、座談会というのは恐らくいろんな関係者で顔合わせをし、つながる場所やというイメージを。今まで、あ、こんな人がいたんだとか、

あ、こういう企業があるんだとか、あ、こんな商店があるんだみたいな出会いの場所で、その人らが遠里小野地域をどう思っているかというのを一旦集めて、じゃ、もう1回みんなでおりのフェスティバルをやろうかみたいなふうになっていけばそれはあれですし、もっとこんなことができるのと違うかみたいなことを集約して意見交換する場所やということなので、いろんな人が参画するという意味において、一旦そのプロセスを出会いの場所として。結構やっぱり皆さんコロナで、皆さん閉じ籠もっておられる方も非常にたくさんいますし、そういう方々が出る場所にもなりますので、一度前向きにやっていただければと思います。

【大谷内委員】 ありがとうございます。

【西田委員長】 ありがとうございます。

それでは、稲田委員、お願いします。

【稲田委員】 すいません、私のほうから、評価軸のタイムスケジュールのところなんですけども、おっしゃっていただいているように3か年計画になりますので、ビジョンの確定から遡っていくとこの流れになるのかなというふうに思います。

一旦委員参加させていただいている側からも評価をさせていただくというところは1ついい視点になるのかなというふうに思いますので、ぜひそこは参画をさせていただきたいなと思います。

この客観的評価の指標のところなんですけども、今、具体的に5つの重点項目を少し細分化したような形で、具体的に現状の到達状況という形で事業の実施の進捗を付記していただいて、確認を取っていただいているという、そういう流れになると思うんですけども、一定、各委員からお話がありましたけども、もちろん見える形でいついつ開催とか、何回開催というのはとても大事なことだとは思いますが、その中身ですよ。1年目、計画作成の年、2年目という形で、どういう形で進んでいるのかというのが少し見えるような形で年度軸が見えれば、評価の仕方も変わってくるのかなというふうに思います。

そうすると、この5つの重点項目にそれぞれA、B、Cという形でいろいろ項目が分かれていくと思うんですけども、それぞれの項目の評価はもちろん必要なんですけども、一定、委員から評価をさせていただくときに、そこまでの評価を細かく分けることでもなくて、例えばその重点項目の5つの評価項目みたいな形で評価させていただくのも1つなのかなと思うんですけども、そこはそれぞれの項目、取り組みがありますので、やはりそれぞれに評価をしていただきたいということであれば、そういうものも必要だと思うんです

けども、あくまで地域福祉ビジョンのところの統括になりますので、これは本当に広くと
いったらあれですけども、各委員から今質問がありましたけども、総ざらいのところがあ
りますので、それぞれの分野でというよりは、それぞれの項目について意見交換がされ
ばなと思いますので、評価としては、それぞれ単一項目を何か評価するというよりは、横
串を刺したような形の評価軸ができればなというふうに思います。

つながり・みまもり・支えあいシステムがあると思うんですけども、もちろんあそこの
イメージ図で、住民側からボトムアップしていくような形で、今でいくと、今回、区の専
門会議になるわけですけども、本来、そこの活動が、先ほど委員からも質問がありました
けども、今のその会議が一体どここの位置づけにあって、それが、会議検討することがどう
いう形で、振り返りでまた循環的にバックアップされていくのかな、いわゆる提供できる
のかなというところで考えると、一番最初でいくと、住民の座談会とか小地域計画のとこ
ろでいくと、一番地域側の活動の支援があると思うんですけども、そこから地域、専門職、
専門職、区、区という形で情報が上がってくる中で、実際にその上がってきた内容とか評
価した項目をもう一度地域側に返すような機会というのを、何か仕組みとしてつくり上げ
ることができたらなというのはちょっと思っているところなんですけども、そこはもしか
すると次期の計画に落とし込めるような形になるのかなというふうに思うんですけども、
ぜひそんな形で戻すことができたらなと思っています。

先ほどからも、地域座談会のイメージとか、小地域計画、福祉計画のイメージとか話が
あったと思いますけども、もちろん多分、今、地活協の組織がありますので、多分、地活
協の組織を中心にしながら実施されているところが多いのかなと思いますので、もちろん
地活協の中にはそこのマルチパートナーシップの考え方でたくさんの方が入っておられる
と思うんですけども、改めてそこの参加者についても、ぜひまた検討していただくような
機会にもなればなというふうに思っていますので、そんなところも少し視点に入れながら
評価ができればなと思っていますので、逆に言うと、その経過が見えるような形の何か
実施状況が見えれば、評価としてもしやすいのかなと思いますので、ちょっとそんなとこ
ろも検討していただければなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

【西田委員長】 ありがとうございます。

一通り皆さん方からご意見をいただきましたが、それぞれの委員の先生方のお話を聞いて、
もうちょっとここを聞いてみたいなとかというのがありますか。よろしいですか。

多くが、やっぱりこれからどのように評価していくのかというのがまだちょっと漠然と

している委員の先生方が多いかなと思うんですけども、私のほうから最後、やっぱり分かりやすくというのが一番必要かなと思います。専門職だけの集まりではないので、公募の先生方もおられますし、地域活動をされているということも含めると、分かりやすくというのはキーワードやと思います。で考えると、この現状到達状況というのはちょっと読み解きにくいところがあるかなと思います。それでいくと、やっぱり質的なものと量的なものという項目をしっかりと切り分けて、評価、見て理解しやすいというものは必要かなと思います。

委員の先生方からもありましたけども、分からない部分がやっぱりある。分からないところは評価が多分できないと思うので、分かるところだけ、委員の先生方は。そこを全部寄せ集めると、ここの全体の委員の評価になるかなと思いますので、そのおのおのの先生方は自分のところで理解しているところ。でも、そこで、小委員会で恐らく議論していくかなと思うので、そのときにほかの分野の人たちの意見をまた見ていきながら、深掘りしていくという方法がいいのかなというふうに思います。

途中で、山下委員のお話の中でも少し述べましたけども、開催をしたという記載が非常に多いんです。会議開催が目的になってしまっているような状況にあるんですけど、やっぱり結構、取り組みをやっていく中で見えている課題が何なのかみたいなところは1つ要るのかなと思います。

それと、ここ何回か、全員でグループワークをしてきていると思うんですね、ここの増進型福祉についての。これとの関連性みたいなところを何か分かりやすい資料を提示していただいて、評価するとき、次のビジョンにつなげるときに、委員の先生方がイメージしやすいようなものは必要かなというふうに思います。私も、小委員会で深掘りできるような資料を随時出していただきながら、分かりやすい形と、それぞれ活動されているものが表現しやすいようにちょっと工夫をしていただければというふうに思いますので。

私のほうからは、意見は以上になります。

ほかの委員の先生方、よろしいですか。よろしいですか。ちょっと時間的には大丈夫ですか。早く終われば早く終わるでよろしいですか。それか、小野先生、今から40分ぐらいお話しされますか。大丈夫ですか。

それでは、総括として、小野先生のほうからコメントをお願いしたいなと思います。

【小野教授】 ありがとうございます。私はアドバイザーですので、総括でも何でもなくて、恐らくこんなことを考えたよという話をするんですけど、まず、一番分かりやす

い会議の持ち方の小委員会方式、要はみんなが集まった、いろんな分野の人が集まったほうがいいよというのをほとんど皆さんが言ったので、これはやっぱりやってきたかがあったなというところですね。だから、ここで「縦割りでやりましょう」と言われちゃったらどうしようと思ったんですけど、まさにやっぱり地域福祉というのはそんなものなので、いろんな意見の人がごちゃごちゃにいるので、事務局のほうもあえてそれを提案したのかもしれないけど、見事に皆さんの見識が非常によく分かりました、本当に地域福祉を進めていく、そういう準備が十分できているなというのはいくぶんよく分かりました。

その上で、評価についてなんですけど、これはどこへ行ってもやっぱり本当に難しいというか、もめます。特に地域福祉の場合は、例えばいろいろ福祉の計画でも、介護保険なんかのやつはかなりデータでほぼできちゃうみたいなのところがあって、次の3年間の目標、これだと数値化して、それが達成できたかできなかったかみたいなことを基に評価していくんですけど、地域福祉の場合には、もちろんそれができる部分もあります。先ほど西田委員長がおっしゃったように、量的に把握できるところはそれができます。例えば、こんなことはないけど、ボランティアをあと100人増やしましょうとかって言って、3年後どうなったみたいな話は、それはできますけど、ただ、それでさえ、実はボランティアが100人増えたことで何があったのということが実は問題なので、どうも量的な調査だけでは、量的な調査ができるところは量的な調査をやるんだけど、そこだけで終わらないのがどうも地域福祉なんだというあたり、そこは皆さんと共有しておきたいですね。だから、委員の皆さんからの評価が重要だという話になってきて、それは本当にまさしくそのとおりだと思いますけど、でも、いきなり評価しろと言われてもなかなか難しいというので、今、いろいろのご意見が出ているんだと思います。

1つは、やっぱり今回、今年からですという方も何人かいらっしゃったように、まず、「地域福祉ビジョンって何？」というあたりをもっとやっぱりちゃんと共有する必要があるんだろうなというのがあって、それが何をめざしているのかというのが一番の到達目標ですよ。そのあたりは、何回もこれをやる中で共有しておくことが必要だと思います。そのめざしているものを分割して、さっきの大きな5つぐらいに分けているという話になるわけですから、そのつながりがちゃんと見えているかどうか重要になってくるというのが、1つの評価できるポイントかなと。この3年間で何をめざしてきましたかというので評価していくと。

実際には全部が分かるわけじゃないので、これも委員長がおっしゃったように本当に自

分が分かる、自分としてはここはこう思うよというところをしっかりと意見を言っていたければいいのであって、それはむしろ強みになります。逆に何か分からなかったからしようがないじゃなくて、むしろ自分が分かるところをまず言ってくださいという、そこがすごく重要なので、そこは安心して言っていたければいいと思いますね。それでみんなで意見を出し合って、ああ、そういう見方もあるのかというのが分かって、トータルな、トータルなというか、委員側からの意見が出てくると。それを受けて、また事務局がどう考えてくるかとか、専門職に戻してそれをどう考えるかというのが出てくるので、そういうやり取りの中で中身が高まってくるんだというふうに思ってもらえればいいと思います。

1回できれいに別に整理できなくてもいいと思います。やりながらだんだん、ああ、これはこういうことなんだなというのを、評価の中で地域福祉が深まっていくようなイメージ、そういうことができれば、単に改訂時期だからやらなくちゃしようがないで終わらないような中身ができそうな気がしています。

その上で、実は今のちょっと地域福祉をめぐる、結構、あんまり大きなことを言うとまた言われそうなんですけど、国の動向はかなりこの間動いてきていますので、今度 Ver. 3をつくる中でなんですけど、やっぱり一番、国のほうでも大きいところでいったら地域共生社会をめざそうと言っているわけですね。地域共生社会をめざそう。その上で包括的支援やっていきましょう、重層的支援やっていましょうというのが出てきています。

そのあたり、例えば重層的支援というあたりになると、何をやるかということ、いろいろ地域の中に複合的な課題を持っていたり、個別支援が必要だったり、例えばさっきのヤングケアラーですね、そういう人たちがいますよねと。どうしますかということで、だから、一方では個別支援、8050とかそういう様々な制度のはざまに落ちてしまうような個別支援をどうしますかというのが問われていて、もう1つには、それを支援するにはやっぱり地域づくりしていくことが必要ですよということを書いてきていて、すごくざっくり言ったら、個別支援、個人を支援する仕組みづくりと地域づくりをする仕組みづくりをどういうふうにそれぞれの地域でやっていきますかというのが問われているというのが今の国の大きな流れです。

ただ、これは住吉でも結構やってきた話であって、そもそも地域づくり、さっきからいろいろ、これは最後に言いますが、座談会なんかというのはその地域づくりの一環として取り組んできたものでありますし、専門職の連携というのもそういう意味で、様々な形で個別な支援ができるようにしていこうということで取り組んできたやつですね。だから、

国がやれと言っているからそれをやるんじゃないなくて、住吉がやってきたことを、国の動向でもこうなっているから、こういうふうな形でやっていきたいと思いますというところをどのぐらい意識するのか、あるいはあんまり意識せずに住吉なりにやりますと言い切るかどうかみたいなところは、ちょっと問われるかなというのは思います。中身の部分です、これは。

いずれにせよ課題としては、住吉の場合どうですかと言われたら、似たような課題が当然ありますし、いや、もっと住吉のほうが先進的な課題があるとは思っているんですけど、そのあたりに対してどういうふうに次のところで考えていくか。今日はそこまでやる場ではありませんけど、恐らく宿題としてそのあたりが課題になりそうなので、どのぐらいの。改訂ですから、全面的に見直すというよりは、改訂していくのかというあたりで意識するか。

ちょっとやっぱり懸念というわけじゃないですけど、今言っているのが総合的な相談とか、断らない相談支援みたいなのところなので、どちらかというところとあんまり縦割りじゃない相談をどういうふうにつくりますかというのが一方にあるんですけど、そのあたりについては、今までのプランだと、どちらかというところと専門職の連携のほうに力を入れていまして、ワンストップとかそういうことはあんまり考えていないんですけど、そのままいくのかどうかというあたりを、特に個別相談のほうでしようね、そっちは住吉なりのやり方をどうつくるかが、これは特に地域福祉のほうなので、やっぱり問われてくるかなとはちょっと思います。

もう一方の地域づくりについては、さっきの話、これは最後にちょっとここだけしますが、地域の座談会というのをやるということで計画、ビジョンに書いてあるんですけど、これは座談会をすることが目的ではなくて、座談会をして、そこで話し合った、こういうことをめざしましょうというものを、これを実現するというのをやりたいんだというのが座談会をやる目的なので、座談会の開催で終わるわけじゃ全然ないですよ。

だから、そこで話し合った内容をどう実現しますかということをやりたいというのは、これはもう数年前からずっと言っているんですけど、そこにちょうどコロナがあったので、なかなかそこが進んでいないんですけども、座談会のための座談会ではなくて、1つは福祉のイメージを変えたいという話をしているので、福祉のイメージというのはどうしてもマイナスをゼロに戻そうと終わってしまって、そうすると、また次の問題、次の問題が出てくるんだけど、そうではなくて、地域の中でこういうことがあったらいいよねというものをつくっていくことで、それを積み重ねていこうという、むしろそっちのほうの福祉

のイメージをめざそうということで、この地域座談会というのに取り組み始めたところがあります。

それが本当に1つずつしかなかかなかできていけないので、全体としてこういうものだというのはなかなか伝わっていかないんだけど、これをもう少し、まずはそれぞれの地域に出向いて伝えていくのか、区のレベルで広報するのか、いろいろあるかと思えますけれども、それをしていかないと、やっぱりいつまでたっても地域座談会って何ですかという話をしなくちゃしょうがないんだろうなと思っています。

それはやっていきますけど、でも、そろそろ、そういう小地域の座談会のレベルのものを区のほうが支援しますよ、それをつくっていきますよというボトムアップ型をしようという話もしてきましたので、これはさっき、一番最後のところで、それこそ稲田さんがおっしゃっていたところに近いんですけども、ちゃんとそのあたりを、区でやることと小地域でやることをどうやってつなげていきますよというあたりのメッセージも併せて、ちょっと整理していく段階かなというふうには思っています。

コロナなのでいろいろ難しいこととかいっぱいありますけど、でも、逆にコロナを理由に何かこういうのができたよというところもあるわけじゃないですか。皆さんの中にもそういうのがあると思うので、そういうのを共有しながら、コロナになって何か新しい展開が始まったというものをぜひめざしていければいいなというのを思っています。

というぐらいで、委員長、よろしいでございましょうか。

【西田委員長】 ありがとうございます。

事務局のほうから何かございますでしょうか。

【田中保健福祉課長】 改めまして、保健福祉課長、田中です。

本日は、地域福祉ビジョンの改訂に向けての評価手法と改訂作業についてということで、委員の皆様、また最後には小野先生からも本当に貴重なご意見をいただきました。

それでやっぱり私が一番思ったのは、最後、西田委員長がおっしゃいましたように、分かりやすくというところがやっぱり評価に当たっては非常に大事なということを確認しましたので。あと、それと、何回やりましたとか、そういう回数というのが非常に多いんじゃないかというところで、そこは量と質を分けて評価しやすいようにということもありましたし、あと、稲田委員のほうからも、その評価をまた地域にフィードバックできるようなことがあってもいいのではないかというようなこともおっしゃいました。本当にいろいろ貴重なご意見だったと思います。また、宮川委員に、自己評価も入れてほしいという

ふうにご意見を出していただきました。その部分については、そういった形で対応させていただきます。

また、小委員会のほうにつきましても、分野別に分けるということではなくて、やっぱり地域福祉が本当に全ての分野にまたがるということで、そういった分野別に分けなくてもいいのではないかとというのが皆様の共通したご意見だったと思いますので、小委員会につきましては、改めてメンバーについてはまた次回以降ご相談させていただくこととなりますけれども、方向性としてはそういった形で進めていきたいと思っております。

いずれにいたしましても、本日様々のご意見をいただきましたので、それを事務局でまた検討させていただきまして、次回、第3回の地域福祉専門会議で改めて説明をさせていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございます。

【西田委員長】 ありがとうございます。ロードマップを示されておりますので、このロードマップを埋めるために恐らくこれから段取りを組んでいかないといけないと思いますので、今日の意見を反映していただいて、しっかりと取り組んでいただければと思います。

そろそろ終了の時間となっておりますが、最後、平澤区長のほうから、今日の会議について一言お願いいたします。

【平澤区長】 皆さん、長い時間にわたりましてご意見いただきまして、本当にありがとうございました。本当に幅広い視野からいろんなご意見をいただきましたので、今後、地域福祉ビジョン改訂に向けて、ちょっと具体的な筋道が見えてきたのかなと思っております。

また、西田委員長におかれましては、非常にいろいろな議論の取りまとめもいただきまして本当にありがとうございました。分かりやすくがキーワードというのが本当にポイントかなと思っております。やはり行政の評価も見せながら、まずはご自分それぞれの得意分野で気づいたことをご意見出していただいて、また、小委員会の場でいろんな方のご意見も聞いて、また新たな気づき、課題とかそういったものもどんどん出していただいて、そういう形でブラッシュアップしていけたらなと思っておりますので、皆様方どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

また、小野先生からもいろいろご提言いただきまして、本当にありがとうございました。確かに国の状況は非常に動いているということで、地域共生社会に向けてということで、新たな課題については入れていく必要があるかなというふうに思っております。このあた

りは事務局のほうで分かりやすく、ちょっとこちらでもある程度料理もしまして、皆様方にもご意見いただけるようなベースはつくっていきたいと考えております。

また、座談会につきましても、コロナで中断もしてしまったということもございましたけれども、やはりこちらも開催が目的ではないと小野先生がおっしゃったとおりでして、開催していろんな人の幅広い意見を聞いて、地域をもっとよくしていこうということにつなげていくというイメージで捉えていただいて、それも地域によって多分いろいろやり方はあるのかなと思っていますので、それぞれの地域で地域にふさわしいといえますか、地域でやりやすい方法で進めていただいて展開していけたらと思っておるところでございます。

また、これも小野先生にご指摘いただいたとおり、区のすることと地域のすることと、そういった役割分担のほうも、今後ビジョンの改訂を進めていく中でご意見もいただきながら整理もしていきたいと考えております。また、コロナによる新しい展開といったものも多分いろいろ、もちろんマイナスの面もあれば、ちょっとプラスになった面ももしかしたらあるかもしれませんので、そういったものも逆にいろいろご意見を出していただいて、加えていけたらと思っているところでございます。

本日は、内容の濃いご意見、議論いただきまして、本当にありがとうございました。また、引き続きよろしく願いいたします。

【西田委員長】 本日の会議にご協力いただきまして、ありがとうございます。本日ご議論いただいた内容については、事務局のほうで取りまとめていただきまして、区政会議のほうへ報告を行っていただければと思います。

今後のスケジュール等についても、事務局からご説明をお願いします。

【三河保健福祉課長代理】 それでは、私のほうから、今後のスケジュールについてお伝えいたします。

次第にも書かせていただいておりますが、本年度の開催日程につきましては、第3回目につきましては2月16日木曜日、午後6時からを予定しております。事務局よりご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日は大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございました。

以上で地域福祉専門会議を終了させていただきます。どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

— 了 —